山形県埋蔵文化財センター調査報告書第16集

黒藤館跡

発掘調査報告書

財団法人
山形県埋蔵文化財センター
6-1994-278-01

1994
278
6

1994

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

黒藤館跡

発掘調査報告書

平成６年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

蔵書
'94. 5. 30
財団法人
山形県埋蔵文化財センター

094 - 278

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、黒藤館跡の調査成果をまとめたものです。

黒藤館跡は山形県の南西部に位置する西置賜郡白鷹町にあります。西置賜北部に位置する白鷹町は、県内を縦走する最上川の東西に広がる町域で、西方に朝日山系の山々が連なり、稜線と緑の自然豊かな景観の地域です。

調査では、館跡に関する土塁や建物跡の確認だけでなく、縄文時代と考えられる陥穴群、古墳時代の方形周溝墓群や平安時代の土器が検出され、それぞれの時代の遺構・遺物を包含する複合遺跡であることが明らかになりました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成５年４月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成６年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　　木　場　清　耕

例　　言

1　本書は一般県道南陽白鷹線緊急地方道路整備事業に係る「黒藤館跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は山形県の委託により財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要項は下記のとおりである。

遺跡名　黒藤館跡（ＤＳＴＫＦ）　遺跡番号　平成４年度登録

所在地　山形県西置賜郡白鷹町大字畔藤字館ノ内

調査期間　発掘調査　平成５年４月１日～平成６年３月25日

現地調査　平成５年７月26日～平成５年10月１日　41日間

調査主体　財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査担当者

調査研究課長　佐々木洋治

主任調査研究員　野尻　侃

調査研究員　名和　達朗

嘱託職員　渡辺　薫

4　発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県土木部長井建設事務所、白鷹町教育委員会、（社）長井・西置賜地域シルバー人材センター、白鷹町立東根小学校等関係各機関の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

5　本書の作成・執筆は、名和達朗、渡辺　薫が担当した。編集は安部　実、伊藤邦弘が担当し、全体については、佐々木洋治が監修した。

6　写真測量については、アジア航測株式会社に実測業務を委託した。

7　出土遺物、調査記録については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ＳＢ　掘立柱建物跡　　ＳＤ　方形周溝墓・溝跡　　ＳＥ　井戸跡

ＳＫ　陥穴・土壙　　ＲＰ　完形・一括土器　　ＲＷ　木製品

ＲＱ　石製品

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。

3　報告書執筆の基準は下記のとおりである。

(1)　調査区概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。

(2)　グリッドの南北軸は、Ｎ－52″ 15′ 40″－Ｅである。

(3)　遺構実測図は、1/30・1/40・1/60・1/100縮図で採録し、各挿図毎にスケールを付した。

(4)　土層断面図中のスクリーントーンは石、礫を示す。

(5)　遺構計測表中の（　）内の数値は、検出部分の計測値、または、推計値を示している。また深さは確認面からの深さである。

(6)　遺物実測図・拓影図は、1/2・1/3で採録し、各々スケールを付した。遺物図版については、任意の縮尺とした。

(7)　遺物図版中の番号は挿図番号を示している。

(8)　遺物計測表中の（　）内の数値は、図上復元による推計値、または、残存値を示している。

目　　次

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至るまでの経過……1

2　調査の経過……2

3　遺跡の概観……2

Ⅱ　遺構と遺物

1　遺構……4

2　遺物……19

Ⅲ　まとめ……21

報告書抄録……22

表

表－1　遺構計測表……6

表－2　遺物計測表……19

挿　図

第１図　遺跡位置図……1
第２図　調査区概要図……3
第３図　遺構配置図……2
第４図　陥穴群……5
第５図　SD１・２方形周溝墓　SK21・53土壙……7
第６図　SD４方形周溝墓　SK28・32・44土壙　SK48陥穴　SD９溝列……9
第７図　SD１・２方形周溝墓　SK21・53土壙土層断面図……11
第８図　SD４方形周溝墓　SK28・32・44土壙　SK48陥穴
　　SD９溝列土層断面図……12
第９図　SE35井戸跡……13
第10図　SE37井戸跡……14
第11図　SE38井戸跡……15
第12図　SE36井戸跡・SB６建物跡……16
第13図　SB５・７建物跡……17
第14図　土墓……18
第15図　出土遺物……20
第16図　黒藤館跡縄張図……21

図　版

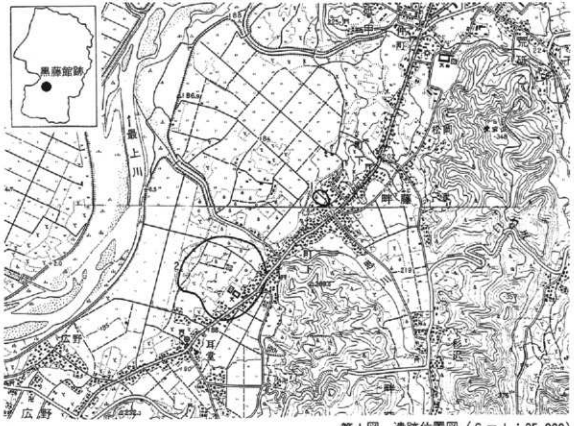
図版１　航空写真
図版２　調査区空中写真
図版３　調査区西側空中写真
図版４　SD１・２方形周溝墓全景　SD４方形周溝墓全景
図版５　遺跡近景　調査風景
図版６　調査風景　調査説明会風景
図版７　陥穴群
図版８　土墓
図版９　土墓調査状況　土墓土層断面
図版10　土墓土層縦断面　方形周溝墓群全景
図版11　SD１・２方形周溝墓土層断面
図版12　SK21土層断面　SK53完掘・土層断面　SD４方形周溝墓全景
図版13　SD４方形周溝墓土層断面　SK28土層断面　SK32・44・48完掘・土層断面
図版14　井戸跡群・掘立柱建物跡
図版15　井戸跡群
図版16　出土遺物（１）
図版17　出土遺物（２）
図版18　出土遺物（３）
図版19　出土遺物（４）

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至るまでの経過

西置賜北部に位置する白鷹町は、県内を縦走する最上川の東西に広がる緑豊かな町域です。それを物語るかのように、畑地等を踏査してみると、遺物の発見される場合があり、「山形県遺跡地図」（昭和53年度刊行　山形県教育委員会）には、これまで59箇所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が登録されている。

管内の畔藤地区に一般県道南陽白鷹線緊急地方道路整備事業が計画され、県教委では遺跡保護と開発事業との調整を行うため、平成４年９月22日に道路計画区域について、遺跡詳細分布調査による現地の表面踏査を実施した。その際、本地区に土塁状の細長い高まりを確認、さらに小字名が「館ノ内」という聞き取りが得られ、城館跡所在地との把握がなされた。その後、同年10月29・30日に道路用地内について、遺跡の範囲や深さ等のより詳しい内容を把握するため12ケ所の試掘坑（約１平方m）を入れ調査が実施された。その結果、館跡の周囲を区画する堀跡や土塁内側平場の溝跡の一部が確認された。土塁は、一部削平を受けているが、館の北側に沿って良好な遺存状態であり、それに平行して外側には、自然地形を利用した空堀もみとめられた。出土遺物は確認できなかったが、この一帯は、城館跡の範囲に入ることが明らかになった。ちなみに遺跡の範囲は、分布調査結果及び地



第Ⅰ図　遺跡位置図（S＝1：25,000）

形観察から東西・南北170mの広がりが想定できる。今回の調査区域は、その北限の部分である。

次に、この分布調査内容を基に関係機関による協議が行われた結果、財団法人山形県埋蔵文化財センターが県から今回委託を受け、本遺跡の路線内に係る区域について発掘調査を行い、遺跡を記録保存することになったものである。

2　調査の経過（図版５・６）

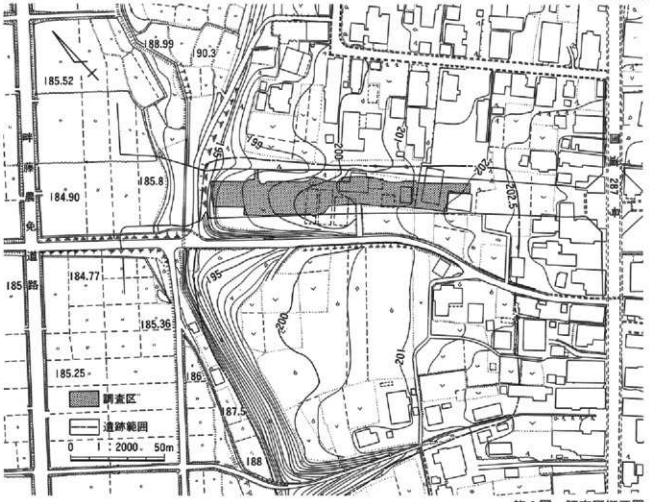
発掘調査は、調査区域決定後重機による表土の粗掘りから始め、調査区域については、計画道路センター杭方向を基準に５ｍを単位とするグリッドを設定した。

次に、手掘りで全体の面削りを進めながら、遺構・遺物の検出を行い、それと並行して必要の都度、写真撮影や平面及び土層断面の実測等の諸記録作業を順次行った。調査区域の西側一帯の平面図記録は、ラジコンヘリによる空中撮影を委託して実施した。

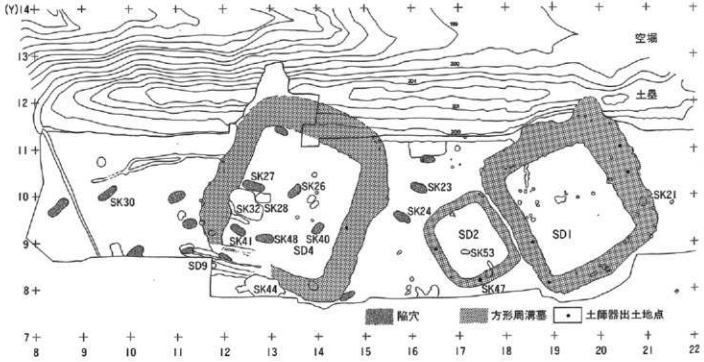
調査の結果については、平成５年９月28日に調査説明会を開催して、概況を報告した。

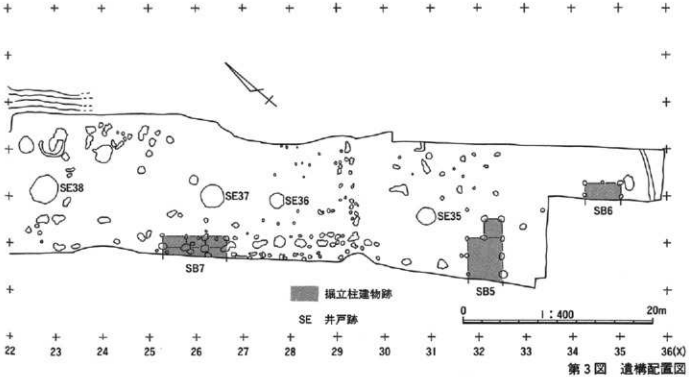
3　遺跡の概観（第１・２図　図版１～３・５・９）

遺跡は、荒砥地区の南西側、国道287号と畔藤農免道路との間の高台で、最上川右岸の河岸段丘上に立地する。地目は、宅地・畑地である。段丘の麓は、畑地でその先は最上川の沖積地に広がる水田地帯である。標高は、198～202mを測り、水田面との比高差は14m程である。調査区の北は空堀跡がＶ字状に入り込み、南側は一段掘り込んで町道が通り、聞き取りでは、「館坂」の地名である。遺跡の南西約500mには、岡ノ台遺跡が位置する。



第２図　調査区概要図





第３図　遺構配置図

II　遺構と遺物

1　遺　構（第3～14・16図　図版4・7～15　表2）

今回の調査では、館構築以前の時代のものも検出できた。陥穴17基、方形周溝墓3基である。館に関連すると考えられるものは、掘立柱建物跡3棟、柱穴群、土壙5基、井戸跡4基、土塁である。陥穴と方形周溝墓は、調査区のほぼ中央から段丘縁辺部にかけて分布する。一方井戸跡や掘立柱建物跡及び柱穴群は、中に入った方に分布する。また、井戸跡は、調査区幅のほぼ中央部に直列に並び、北のＳＥ38から35までその中心を基準に、18m・7ｍ・16mの間隔で並ぶ。各遺構の確認面は、黄褐色のシルトの地山上面である（第7・8図）。土塁は、調査区の北辺部分に接して直線的に延び、その外側に沿ってＶ字形を呈する空堀がはしり、ＳＤ１北側付近で徐々に浅くなっている。

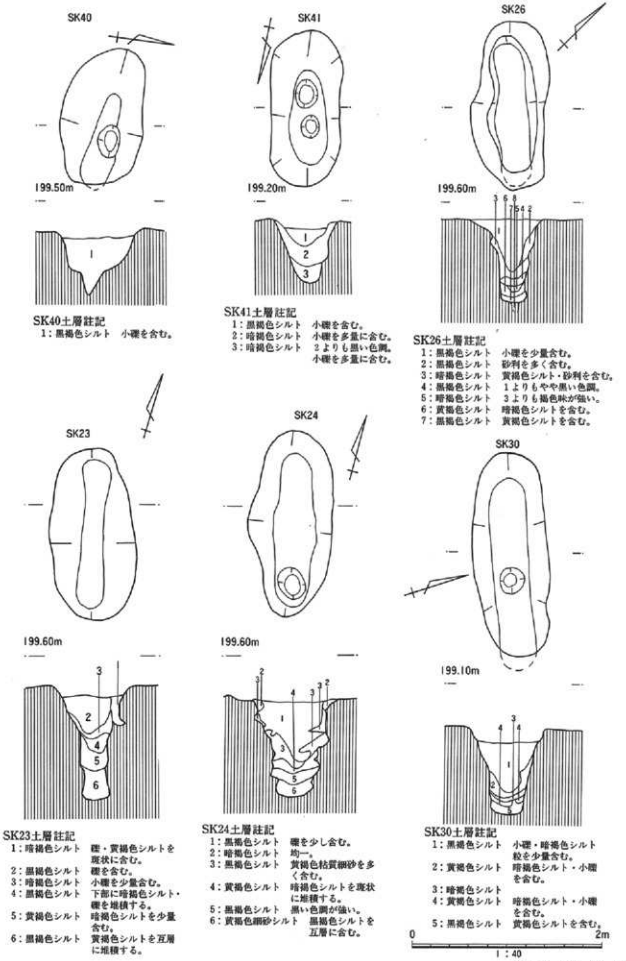
陥穴群（第4図　図版7・13）

8～16－8～12に分布する。全体の方向は一定ではないが、ＳＤ２の北側及び4の北辺沿いであるグリッドＸ軸11・12～13・15～16にかけては、台地を横断するように2～5ｍの間隔で3列の並列分布がみとめられる。平面形は、細長い楕円形である。プラン確認部分は比較的広めであるが、ＳＫ23・26に見られるように、壁面が途中から幅が狭くほぼ垂直気味に掘り込まれ、一見溝状の落ち込みである。底面は、ほぼ平坦で、中央や壁寄りに1ないし2本の小ピットをもつものがある。出土遺物は、確認できなかった。

方形周溝墓群（第5～8図　図版4・10～13）

ＳＤ１は、17～21－8～12に位置する。溝は、南北方向に長辺をもち、幅が狭い南及び西辺と、幅が広い北及び東辺とで構成する。主軸方向は、Ｎ－20°－Ｅである。プランは外側の方が凹凸があり、内側は直線的である。壁は直線的に掘り込まれ、深さは一様ではなく、底面は凹凸をもつ。北辺部分は、土塁の下に入り全体の確認はできなかった。溝の覆土精査段階で小ピット列が、部分的にみとめられた。重複状況は確認できなかったが、プラン沿いに並ぶことから溝との関連も否定できない。出土遺物は、溝の東辺及び南東隅から土師器坩(第15図1)・壺(4)が出土。また、北東側の覆土上部から土師器高台付坏(3)・赤焼土器坏（5）が出土した。この部分は、周溝プランが膨らんでさらに土塁下まで延びており、前述の出土土器の特徴から平安時代の重複遺構の所在が考えられる。

ＳＤ２は、16～18－8～11に位置する。ＳＤ１の西側にほぼ平行な向きに隣接し、主軸方向もＮ－20°－Ｅである。同遺構よりも小規模な遺構で、溝幅も比較的狭い。壁は、ほぼ直線的に掘り込まれ、プランの遺存状況は良好である。底面までの深さは一定ではなく、北東側から南西側にかけて深くなっている。溝の南辺中央部に土壙状の掘り込みがみとめられたが、陶磁器・針金の出土から後世の所産と考えられる。出土遺物は、南辺から土師器壺（第15図6）、西辺から坩（8）が覆土中より出土した。



第4図　陥　穴　群

ＳＤ４は、11～15－８～12に位置する。ＳＤ2北側に隣接し、規模は比較的大形で溝も深い。溝は、東西方向に長辺をもち、やや凹凸のあるプランで溝幅も広い。主軸方向は、Ｎ－69°－Ｅである。西辺は、浅くしかも溝列が重複し、プランが連続するかは不明である。東辺は、土塁下まで延びる。南辺はＳＫ44、北辺はＳＫ32が重複する。壁は緩やかに掘り込まれ、深さは南西側から北東側にかけて深くなっている。底面は、凹凸を呈する。出土遺物は、土師器坩（第15図９）、壺（推定）体部片（第８図）が覆土中から出土した。

ＳＥ35～38井戸跡（第９～12図　図版14・15）

素掘りで、推定も含め底面上部の壁は、ほぼ垂直気味に掘り込まれ、底面はＳＥ35で凹凸を示すが、ほぼ平坦である。また、同底面には、礫群の集石がみとめられた。出土遺物は、ＳＥ37から陶磁器、35・37から木製品、37から石製品（図版19）が出土した。

掘立柱建物跡群（第12～14図　図版14）

すべて調査区南辺外まで入り全体については、不明である。位置関係から井戸跡との関連が考えられる。推定の主軸方向は、ＳＢ５はＮ－43°－Ｅ、６はＮ－44°－Ｅ、７はＮ－40°－Ｅである。出土遺物は、確認できなかった。

土壙群（第７・８図　図版12・13）

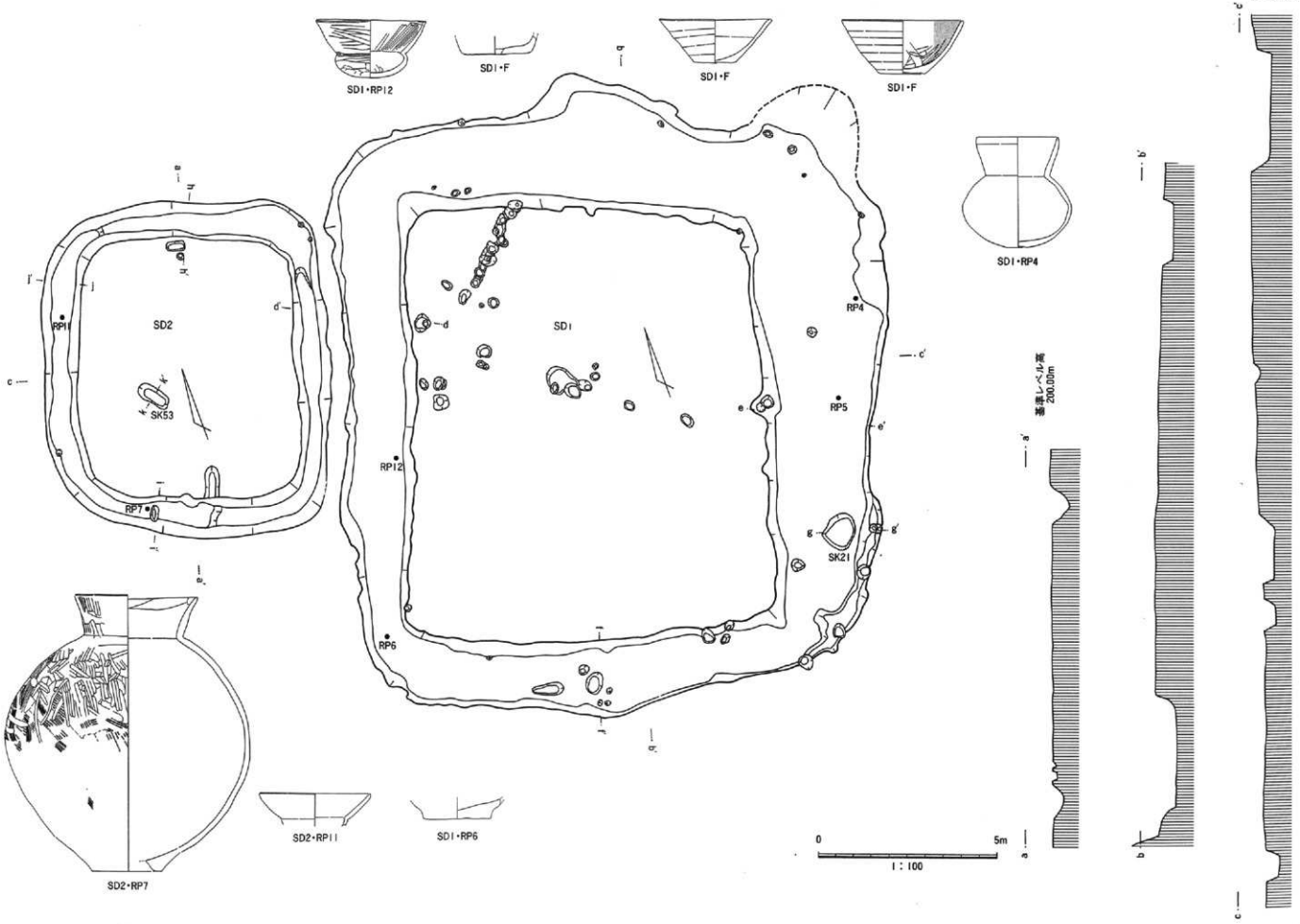
陥穴以外の一群を一括する。出土遺物は、ＳＫ32・47から陶磁器片が出土。

土塁（第14・15図　図版８～10）

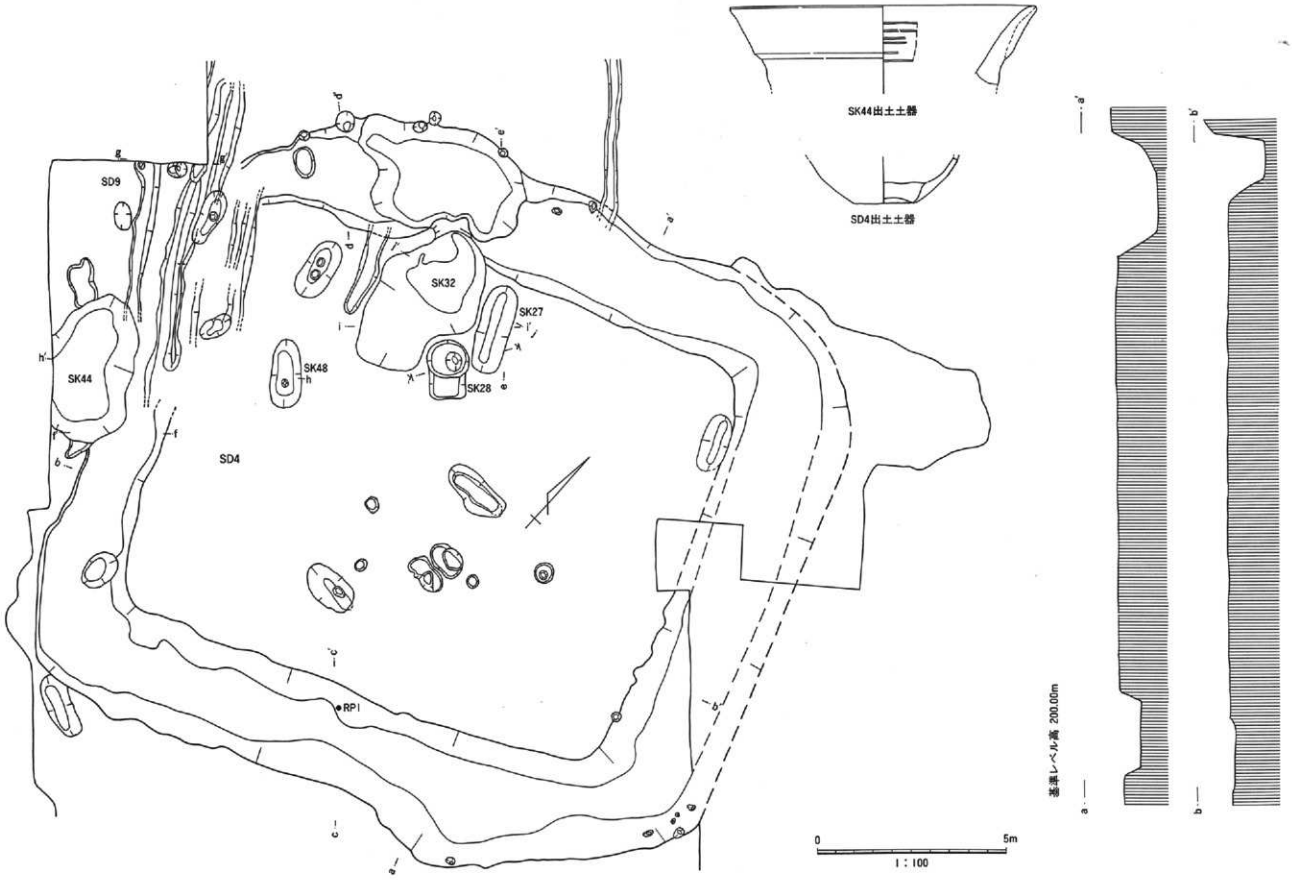
段丘縁辺部からＸ軸30列付近まで残る。高さ2.2m、上幅1.4m、基底部6.6mを測る。

表―１　遺構計測表

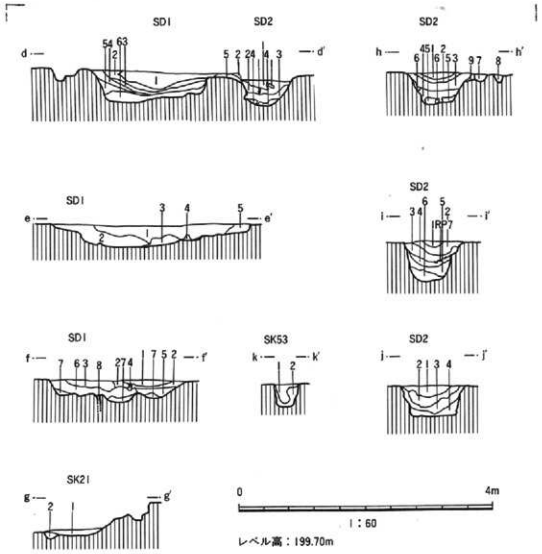
遺構番号	挿図番号	図版番号	検出地区（グリッド）	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考　長軸×短軸×深さ(m)
SD１	第７図	4	17～21－８～12	方形	17.53	15.12	0.52	RP４～６・12出土
SD２	第７図	4	16～18－８～11	方形	9.47	8.09	0.61	RP７・11出土
SD4	第８図	4	11～15－８～12	方形	(17.30)	17.18	1.04	RP１出土
SB５	第13図	14	31・32－８		6.68	3.85	0.35	
SB６	第12図	14	34－9・10		3.74	1.82	0.29	
SB７	第13図	14	25・26－8・9		6.31	2.15	0.68	
SK21	第７図	12	20－９	円形	0.99	0.92	0.16	旧 SD１→新 SK21
SK23	第４図	7	16－10	楕円形	1.82	0.91	1.22	陥穴
SK24	第４図	7	15－９	楕円形	1.92	0.90	1.08	陥穴　34×23×22の小穴
SK26	第４図	7	13－10	楕円形	1.78	0.85	0.88	陥穴
SK27	第８図		12－10	楕円形	2.35	0.87	0.68	陥穴
SK28	第８図	13	12－９	不整円形	1.51	1.12	0.57	
SK30	第４図	7	９－10	楕円形	2.16	0.83	0.91	陥穴　28×26×16の小穴
SK32	第８図	13	12－９	不整円形	4.18	2.86	1.03	
SE35	第９図	15	30－９	円形	2.10	1.93	2.00	礫群　RW３・９出土
SE36	第12図	15	27－９	楕円形	1.66	1.57	1.95	
SE37	第10図	15	26－９	円形	2.45	2.44	2.15	RQ２・RW８　陶磁器片出土
SE38	第11図	15	22－10	円形	3.02	2.98	2.55	
SK40	第４図		14－９	楕円形	1.49	0.89	0.71	陥穴　36×27×19の小穴
SK41	第４図	7	12－９	楕円形	1.66	0.76	0.68	陥穴　31×27×18、23×19×17の小穴
SK44	第８図	13	12－７	不整円形	3.86	2.32	0.44	
SK48	第８図	13	12－８	楕円形	1.32	0.79	0.68	陥穴　21×17×19の小穴
SK53	第７図	12	17－８	楕円形	0.95	0.43	0.36	
SD９	第８図		12－８		長さ 7.75	幅 0.52	0.42	耕作等による溝列群



第5図 SD1・2方形周溝墓 SK21・53土壙



第6図 SD4方形周溝墓 SK28・32・44土壙 SK48陥穴 SD9溝列



SD1土層註記（d～d'）
1：黒褐色シルト　小礫を少量含む。
2：暗褐色シルト　小礫を少量含む。
3：暗褐色シルト　2よりも暗い色調。
4：黄褐色シルト　黄褐色シルトを含む。
5：暗褐色シルト　黄褐色シルトを少量含む。
6：暗黄褐色シルト　黄褐色シルトを多量に含む。

SD1土層註記（e～e'）
1：黒褐色シルト　小礫を含む。
2：暗褐色シルト　黄褐色シルトを斑状に含み、小礫を少量含む。
3：暗褐色シルト
4：暗褐色シルト　小礫を多量に含む。
5：黄褐色シルト　小礫を含む。暗褐色シルトを含む。

SD1土層註記（f～f'）
1：黒褐色シルト　褐色味を帯びる。
2：黒褐色シルト
3：褐色シルト　黄褐色シルトを含む。
4：褐色シルトブロック
5：暗褐色シルト　小礫を含む。
6：暗褐色シルト　黄褐色シルト粒を斑状に含む。
7：暗黄褐色シルト　暗褐色シルト粒を少量含む。
8：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒を含む。

SK21土層註記（g～g'）
1：暗褐色シルト　炭化物・小礫を少量含む。
2：黄褐色シルト　黄褐色シルト・暗褐色シルトを斑状に含む。

SK53土層註記（k～k'）
1：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒を含む。
2：黒褐色シルト　黄褐色砂質シルトブロックを斑状に多く含み、小石を少量含む。

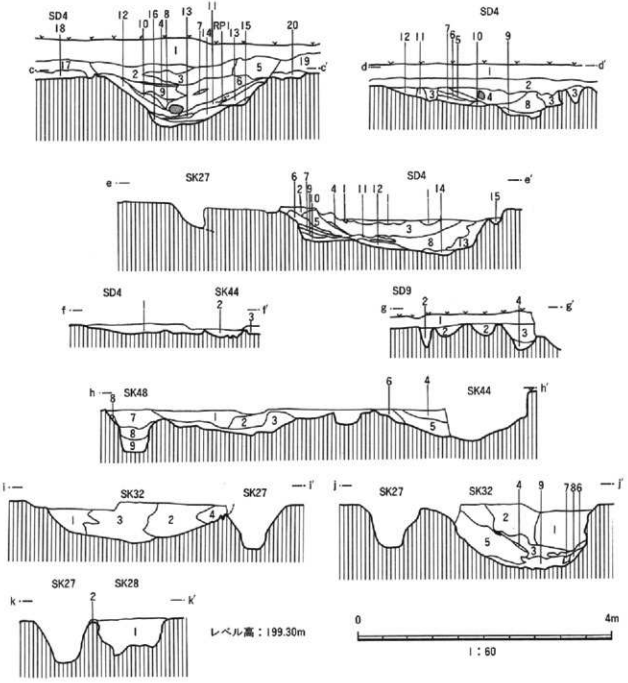
SD2土層註記（d～d'）
1：暗褐色シルト　褐色に近い色調。
2：暗褐色シルト　均一
3：暗褐色シルト　黄褐色シルトを少量含む。
4：暗黄褐色シルト　黄褐色シルトに暗褐色シルトを少量含む。
5：暗褐色シルト　黄褐色シルトを含む。

SD2土層註記（h～h'）
1：黒褐色シルト　小礫を少量含む。
2：暗褐色シルト　小礫を少量含む。SD2（d～d'）1層。
3：暗褐色シルト　1よりも若干褐色の色調。小礫を少量含む。SD2（d～d'）2層。
4：暗褐色シルト　黄褐色シルトを少量含む。SD2（d～d'）3層。
5：暗黄褐色シルト　黄褐色シルトに暗褐色シルトを含む。SD2（d～d'）4層。
6：黄褐色シルト　ブロック状。
7：暗褐色シルト　褐色の色調に近いシルトを含む。
8：暗褐色シルト　小礫を少量含む。
9：暗褐色シルト　褐色に近い色調。

SD2土層註記（i～i'）
1：黒褐色シルト　褐色味を帯び、小礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2：黒褐色シルト　小礫を少量含む。
3：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒を含む。土器RP7・炭化物を含む。
4：暗褐色シルト　小礫を少量含む。
5：黒褐色シルト　黄褐色シルトブロックを斑状に含む。
6：黄褐色シルト　壁際に黒褐色シルトを含む。

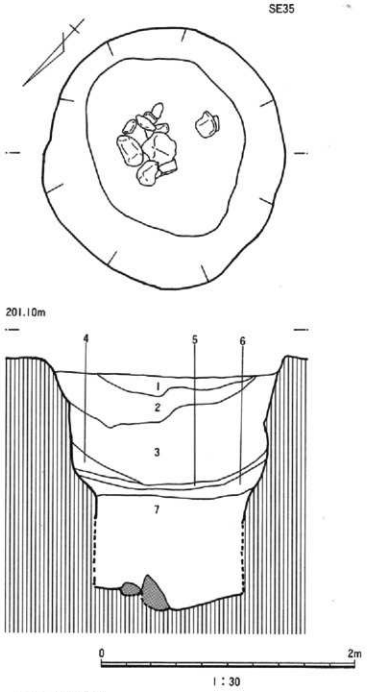
SD2土層註記（j～j'）
1：黒褐色シルト　褐色味を帯び、小礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2：黒褐色シルト　小礫を少量含む。
3：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒を含む。
4：黒褐色シルト　黄褐色シルトブロックを斑状に含む。

第7図　SD1・2方形周溝墓　SK21・53土壙土層断面図



SD4（上層断面 (c-c')
1：暗褐色シルト　細砂土・砂利を含む。
2：暗褐色シルト　細砂を含む。
3：暗褐色シルト　砂利・小礫を多量に含む。
4：暗褐色シルト　1よりも暗い色調。
5：暗褐色シルト　砂利を多量に含む。
6：暗色シルト　砂利を多量に含む。大型の礫を含む。
7：暗褐色シルト　砂利を含む。
8：暗褐色シルト　砂利を含む。色調は中砂を多量含む。
9：暗褐色シルト　細砂を含む。1よりやや明るい色調。
10：黒褐色シルト　9よりもやや強く、1よりもやや明るい色調。
11：暗褐色シルト　8に似た色調で、8を含む。
12：暗褐色シルト　小石を含む。
13：暗褐色シルト　小礫を含む。
14：暗褐色シルト　12よりやや暗い色調。黄褐色シルト粒子・砂利を含む。
15：暗褐色シルト　黄褐色シルトブロックを含む。
16：暗褐色シルト　黄褐色シルト・1よりもやや明るい色調。砂利を多量含む。
17：暗褐色シルト　8よりもやや明るい色調。砂利を多量含む。
18：暗褐色シルト　砂利をやや含む。
19：暗褐色シルト　砂利を多量に含む。
20：暗褐色シルト　砂利を多量に含む。
SD4（中層断面解説 (d-d')
1：暗褐色シルト　黄褐色シルトを斑状に含み、砂利を含む。
2：暗褐色シルト　黄褐色シルトを斑状に含み、砂利を含む。
3：暗褐色シルト　黄褐色シルト・砂利を含む。
SD9（東西断面解説 (g-g')
1：暗褐色シルト　砂利を含む。砂質土。
2：暗褐色シルト　黄褐色砂質シルトを含む。
3：暗褐色シルト　小石を含む。黄褐色砂質シルトを含む。
4：暗褐色シルト　1よりも暗い色調。砂利を多量に含む。
SK48（東西断面解説 (h-h')
1：暗褐色シルト　黄褐色シルトブロックを多量に含む。砂利を多量に含む。
2：暗褐色シルト　黄褐色砂質シルト粒・砂利を含む。
3：暗褐色シルト　黄褐色砂質シルト・褐色砂利を含む。
4：暗褐色シルト　砂利を含む。
5：暗褐色シルト　黄褐色シルトブロックを含む。
6：暗褐色シルト　砂利を含む。褐色の土器片上。
7：暗褐色シルト　砂利を含む。黄褐色シルトブロックを含む。
8：暗褐色シルト　砂利を多量に含む。
9：暗褐色シルト　5よりも暗褐色調で、砂利を多量に含む。
SK32（東西断面解説 (i-i')
1：暗褐色シルト　砂利を多量に含み、黄褐色シルト粒・ブロックを斑状に含む。
2：暗褐色シルト　黄褐色シルト粒を含む。土器細片あり？
SD4（下層断面 (d-d')
1：暗褐色シルト　細砂土・少礫を多量に含む。
2：暗褐色シルト　小礫を多量に含む。1よりも黒い色調。
3：暗褐色シルト　暗黄褐色シルトを少礫を含む。
4：暗褐色シルト　暗褐色シルトを含み、大小礫を含む。
5：暗褐色シルト　1礫を含む。
6：暗褐色シルト　1よりもやや黒い色調。小礫を含む。
7：暗褐色シルト　小礫を多量に含む。
8：暗褐色シルト　1よりも黒い色調。炭化物・小礫を含む。
9：暗褐色シルト　小礫を多量に含む。
10：暗褐色シルト　暗色シルトを含む。
11：暗褐色シルト　小礫・暗褐色シルトを含む。
12：暗褐色シルト　小礫を含む。
SD4（下層断面 (e-e')
1：暗褐色シルト　小礫を少量含む。
2：暗褐色シルト　1よりも黒い色調に近み、小礫を少量含む。
3：暗褐色シルト　小礫を含む。
4：暗褐色シルト　1よりも黒い色調。
5：暗褐色シルト　黄褐色シルトを含む。
6：暗褐色シルト　黒褐色シルトを含む。
7：暗褐色シルト　1よりも黒い色調。
8：暗褐色シルト　1に近い色調。
9：暗褐色シルト　小礫を含む。
10：暗褐色シルト　暗褐色シルト・黄灰褐色シルトを含み小礫を含む。
11：暗褐色シルト　炭化物・小礫を含む。
12：暗褐色シルト　小礫を少量含む。
13：暗褐色シルト　黄褐色シルトを部分的に斑状に含む。
14：暗褐色シルト　小礫を多量に含む。
15：暗褐色シルト　黄褐色シルトを斑状に含む。
SK27（東西断面 (f-f')
1：暗褐色シルト　暗褐色粒を含む。
2：暗褐色シルト　黄褐色シルトを含む。砂利を多量に含み、黄褐色シルトを斑状に含む。
3：暗褐色シルト　1よりも暗い色調。砂利を含み、黄褐色シルトを斑状に含む。
4：暗褐色シルト　黄褐色シルト・黄褐色シルト粒を斑状に含み、砂利を少量含む。
SK27（下層断面 (j-j')
1：黒褐色シルト　黒褐色シルトを少量含む。
2：黒褐色シルト　黒褐色シルトブロックを斑状に含む。砂利を多量に含む。
3：暗褐色シルト　黒褐色シルトを含み、砂利・礫を含む。
4：暗褐色シルト　1よりもやや明るい色調。
5：黒褐色シルト　黄色シルト・黄褐色シルト・黒褐色シルトを斑状に含む。小礫を含む。
6：黒褐色シルト　暗褐色シルトを含み、砂利を含む。
7：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒を含む。砂利を多量に含む。
8：黒褐色シルト　黄褐色シルトを多量に含む。黄褐色シルトを少量含む。
9：黒褐色シルト　黒褐色シルトブロックを部分的に含む。

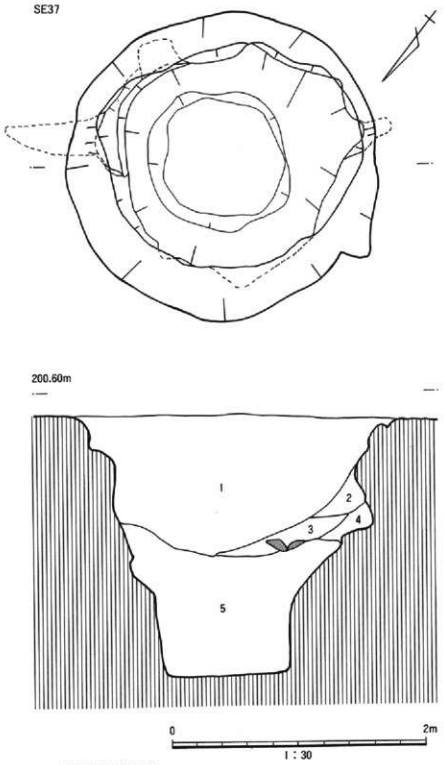
第 8 図　SD4方形周溝墓　SK28・32・44土壙　SK48陥穴　SD9溝列土層断面図



SE35土層註記

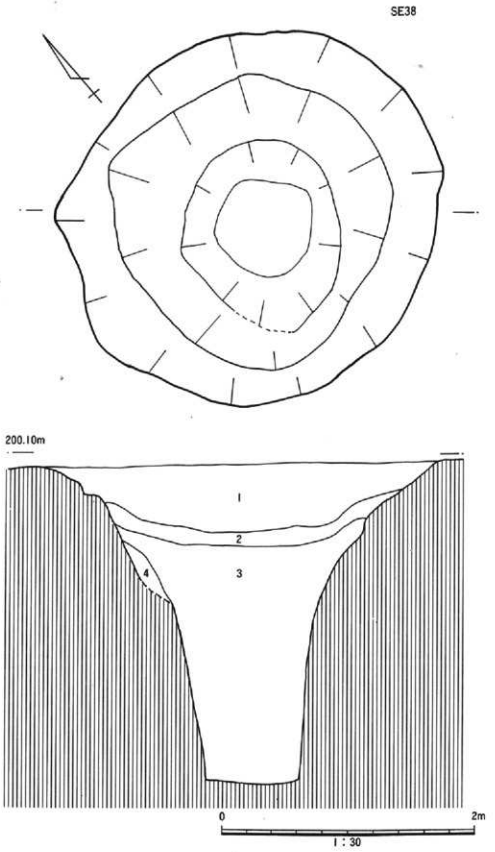
1：暗褐色シルト　黄褐色シルトブロックを斑状に含む。
2：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒・暗褐色シルトを含む。
3：黒褐色シルト　黄褐色シルトブロックを斑状に多量に含み、礫を含む。
4：暗褐色シルト　1よりもやや黒っぽい色調。
5：暗褐色シルト　4よりも黒っぽい色調。
6：褐色シルト　黄褐色シルトを含み、下部に酸化鉄を含み、かたくしまっている。
7：黒褐色シルト　青灰色シルトブロックを斑状に含み、砂・泥炭を含む。

第 9 図　SE35井戸跡



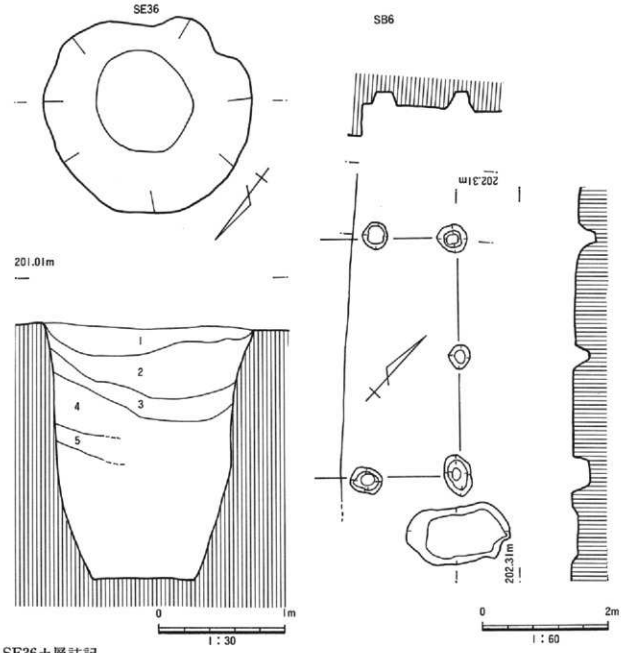
SE37土層註記
1：暗褐色シルト　黄褐色シルトブロック・小礫を少量含む。
2：濁黄褐色シルト　暗褐色シルトを斑状に含む。
3：暗褐色シルト　砂・小礫・礫を多量に含む。炭化物を含む。
4：暗褐色シルト　黄褐色シルト・小礫・炭化物を少量含む。
5：暗褐色シルト　黄褐色シルト粒・小礫を含み、やや黒い色調。上部に堅い酸化鉄の層を堆積する。

第10図　SE37井戸跡



SE38土層註記
1：暗褐色シルト　黄褐色シルトブロック・小礫・炭化物を少量含む。
2：暗褐色シルト　黄褐色シルトブロックを斑状に含む。
3：暗褐色シルト　黄褐色シルト粒を含み、小礫を少量含む。
4：濁黄褐色シルト　酸化鉄・暗褐色シルトを多量に含む。

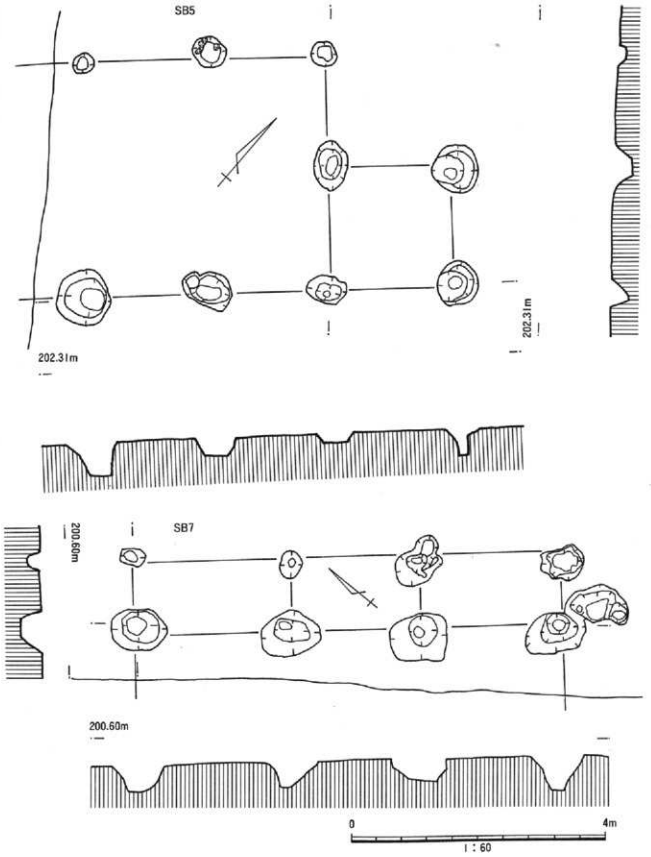
第11図　SE38井戸跡



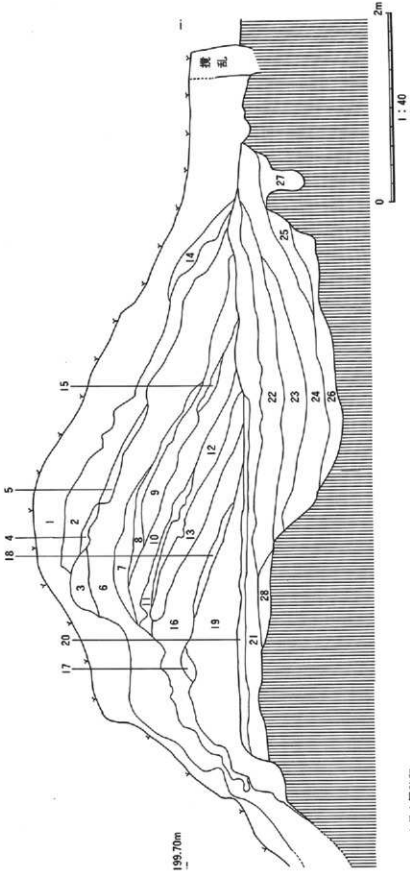
SE36土層註記

1：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒・砂利を含む。
2：濁黄褐色シルト　黄褐色シルトブロック・暗褐色シルトの混じり。砂利を含む。
3：黒褐色シルト　中央に黄褐色シルト・小石混じりのブロックをレンズ状に堆積する。
4：暗黄褐色シルト　小石・砂を含む。
5：黒褐色シルト　黄褐色シルト粒・炭化物を含む。

第12図　SE36井戸跡　SB6建物跡



第13図　SB5・7建物跡



土色土層注記
1：暗褐色シルト　灰褐色シルトブロックを部分的に含む。
2：灰褐色シルト　暗褐色シルトを含む。
3：灰褐色シルト
4：灰褐色シルト　暗褐色シルトを若干に多く含む。
5：灰褐色シルト　暗褐色シルトを少量含む。
6：灰褐色シルト　比較的しまっている。
7：灰褐色シルト　しまっている。
8：灰色粘質シルト　黒褐色シルトブロックを含む。
9：灰色粘質シルト　黒褐色シルトを少量含む。
10：灰褐色シルト　黒褐色シルトを多量に含む。
11：黒褐色シルト　灰褐色シルトを多量に含む。
12：黒褐色シルト　黒褐色シルトを少量含む。小石を少量含む。
13：暗褐色シルト　灰褐色シルトを若干に含む。
14：暗褐色シルト　灰褐色シルトを含む。小石を少量含む。
15：暗褐色シルト　灰褐色シルトを含む。
16：暗褐色シルト　灰褐色シルトを多量に含む。
17：暗褐色シルト
18：暗色灰シルト　黒色シルト・黒褐色シルト粒を含む。
19：暗褐色シルト　黒っぽい色調。小石を少量含む。
20：暗褐色シルト　黒っぽい色調。やや粘土質で小石を少量含む。
21：暗褐色シルト　小石を含む。
22：暗褐色シルト　21より黒い色調。小石を含む。
23：暗褐色シルト　22より明るい色調。小石を比較的多く含む。
24：暗褐色シルト　23より黒い色調。小石を含む。
25：暗褐色シルト　灰褐色シルトブロック・黒色シルトを含む。
26：暗褐色シルト　灰褐色シルトブロック・黒色シルトを若干に含み、小礫を含む。
27：暗褐色シルト　小礫を多量に含む。
28：灰褐色シルト・黒褐色シルト・小石を含む。
1～19までは盛り土

第14図　土色土層断面図

2　遺　物（第15図　図版16～19　表2）

土　器（第15図1～10　図版16・17）

縄文時代の土器は深鉢の底部片（7）で、地文は、不明である。

古墳時代の土師器は、坩（1・8・9）・壺（2・6・10）で方形周溝墓の溝の覆土出土である。坩は、頸部のくびれから口縁部が大きく外反し、体部の偏平な小形丸底で、底部に丸いへこみを有するもの（9）もみとめられる。（1）は、体部から口縁部は横ないし斜め方向のヘラミガキが行われ、底部はヘラケズリの痕跡を残す（1・9）。口縁部内面は、頸部内面の稜から縦方向にヘラミガキが行われ、上端で横方向に入る。口縁部は若干内弯して立ち上がり、同端部で緩く外反する。壺は大小に分けられる。（4）は、小形でやや偏平な体部から口縁部が直線的に外傾し、端部で外面から内傾して薄く仕上げ、直立気味に立ち上がる。底部の丸いヘコミは、坩に類似する。（6）は大形のもので、若干細みがかった球形の体部で頸部から直立気味に立ち上がり、口縁部下から少し外反して開く。口縁部から体部上半は刷毛目・ヘラケズリ・ヘラミガキが行われ、部分的に体部上半は光沢を呈する。下半は、器面が荒れて刷毛目の痕跡を留めるのみである。底部は、体部からくびれて、外周部が若干突き出て作られる（2・6）。残存部分が少なく、底部穿孔の有無は不明である。複合口縁壺（10）は、口縁部が肥厚して下に段をつくる。口縁部の立ち上がりは、（6）に類似するものと考えられる。内面は、横方向の刷毛目調整である。

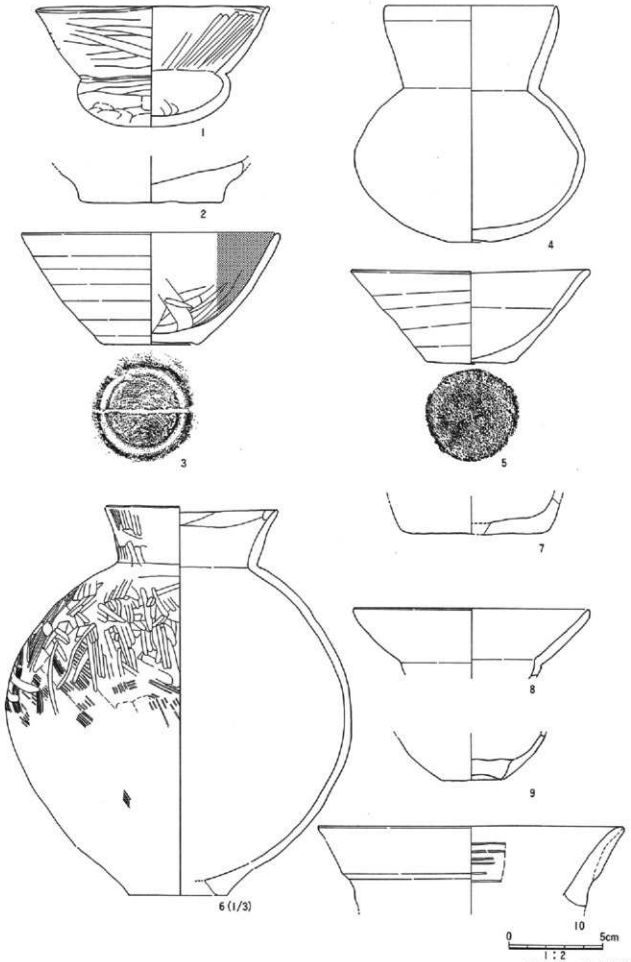
平安時代の土器は、方形周溝墓の溝の覆土上部から出土の土師器高台坏（3）、赤焼土器坏（5）である。（5）は、底面にナデが入り明瞭ではないが、両方ともロクロ成形で、底部回転糸切り離しと考えられる。

陶磁器（図版18）

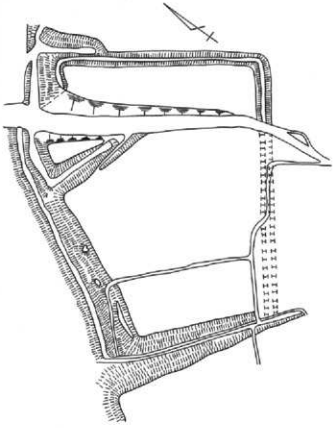
瀬戸系の皿・碗・鉢類で、出土数は少ない。染付輪花皿や鉄釉を施した碗類がみとめられる。また、土墨表土出土の行火の一部と推定されるものがある。

表－2　遺物計測表

器種	器形	挿図番号	図版番号	出土位置	計測値（mm） 口径	底径	器高	器厚	備考
土師器	坩	15－1	16	SD1	122	—	65	3	RP12
土師器	壺	15－2	17	SD1	—	(78)	(22)	7	RP6
土師器	高台付坏	15－3	17	SD1	138	51	60	4	ロクロ成形　底部回転糸切り離し
土師器	坩	15－4	17	SD1	(91)	21	(126)	5	RP4
赤焼土器	坏	15－5	17	SD1	128	47	50	4	ロクロ成形　底部回転糸切り離し
土師器	壺	15－6	16	SD2	140	78	310	6	RP7
縄文土器	深鉢	15－7	18	SD1	—	(76)	(19)	5	
土師器	坩	15－8	17	SD2	(126)	—	(37)	4	RP11
土師器	坩	15－9	17	SD4	—	32	(24)	3	
土師器	壺	15－10	17	SK44	(163)	—	(42)	10	
木製品	板		19	SE35	長径 215	短径 198	厚 11	重量 760g	RW9
木製品	笠	桷	19	SE35	(150)	78	(73)	(11)	RW3
木製品	横	鞍	19	SE37	最長 81.5	全長 369	—	重量 1175g	RW8　鞍り部　直径39.8mm　長さ161mm　重量175g
木製品	横	桟	19	SE35	厚さ 695	幅 84	厚さ 16	重量 1120g	
石製品	石	臼	19	SE37	最長径 (270)	—	121	重量 4100g	RQ2　貫通孔の直径13.5mm



第15図　出土土器



第16図　黒藤館跡縄張図
（白鷹町教育委員会　大木健一氏測図）

木製品（図版19）

塗椀、横槌、楕円形の板、ほぞをもつ板材である。塗椀は、刳り物の漆器で高台部に切り込みが入り、体部には朱で円文に花か文字様の図柄が描かれている。横槌は、内反りで表面が一部剝落し、槌部分には直線的な傷がみとめられる。楕円形の板は、外形から木製容器の底板を想定できる。板材は、側縁の一辺は朽ちているが、その一端にほぞを切り出していることや、ＳＥ35出土であることから井戸枠の横桟と考えられる。

石製品（図版19）

ＳＥ37出土の茶臼状の石臼破片である。中央に貫通孔が穿たれ、上面には、放射状に溝が入る。外縁には、溝状に受部が入り、体部下半は、台形の脚を呈する。

III　まとめ

1　縄文時代は、17基を数える陥穴群の検出である。細長い楕円形の掘り込みで、長軸の長さ２ｍ・深さ１ｍ前後、底面には１・２個の小ピットがみとめられる。獣道に掘ったのか、台地上に点々と連続する。出土遺物は確認できず、時期詳細は不明である。

2　古墳時代は、３基の方形周溝墓群である。内径の大きさは６～14ｍで、溝の深さは、10cm～１ｍ、幅も１～３ｍと一様ではない。主体部は、確認できなかった。ＳＤ１・２は、近接して平行に並び被葬者間の関連性が考えられる。時期は、底部丸底の偏平な坩や小形壷、体部略球形及び複合口縁壷の出土土器の特徴から塩釜式第Ⅱ段階併行、古墳時代前期（４世紀代）の所産と考えられる。

3　平安時代は、ＳＤ１北東部土塁下まで延びるプランの膨らみ及び土師器高台付坏や赤焼土器坏の出土土器の内容から、重複する住居跡等の所在が考えられる。

4　館に関連するものは、土塁や掘立柱建物跡・井戸跡・柱穴群である。土塁は、ＳＤ１・４上に重複して盛土によって構築される。井戸跡は、素掘りで、直線上に並ぶ。中からは、陶器・木製品が出土した。陶器の特徴から近世以降の時期が考えられる。中世までさかのぼる資料は確認できなかった。

参考文献
宮城県教育委員会，1985年，『今熊野遺跡　一本杉遺跡　馬越石塚』，宮城県文化財調査報告書第104集．
財団法人山形県埋蔵文化財センター，1993年，『岡ノ台遺跡調査説明資料』．

報告書抄録

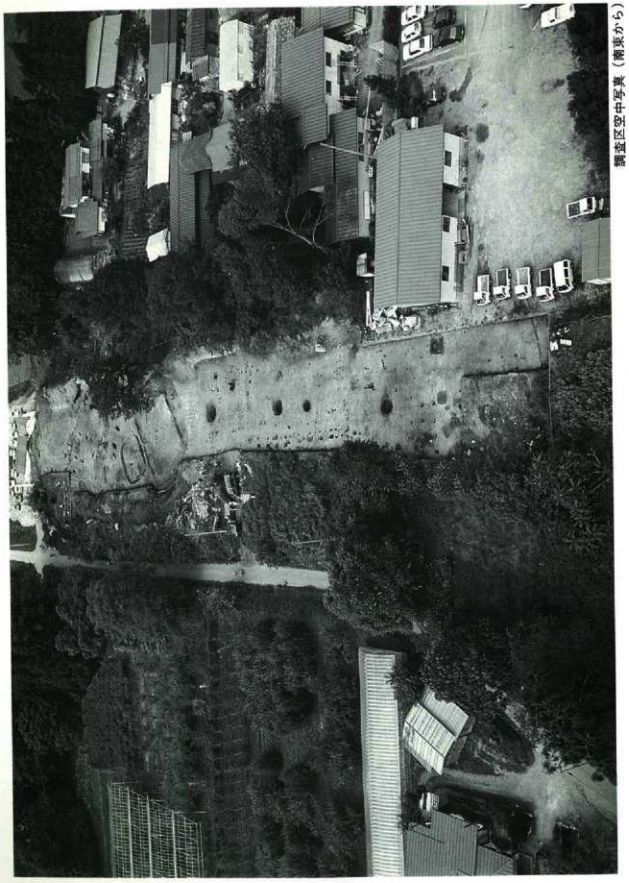
ふりがな	くろふじたてあとはっくつちょうさほうこくしょ
書名	黒藤館跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第16集
編著者名	名和達朗・渡辺　薫
編集機関	財団法人　山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 0236-72-5301
発行年月日	西暦１９９４年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
くろふじたて 黒藤館	やまがたけんにしおきたまぐん 山形県西置賜 ぐんしらたかまちおおあざ 郡白鷹町大字 くろふじあざたてのうち 畔藤字館ノ内	6402	平成４年 度登録	38度 10分 02秒	140度 05分 39秒	19930726～ 19931001	2,770	一般県道南陽白鷹線緊急地方道路整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
黒藤館	集落跡 墳墓 城館跡	縄文	陥穴	17	縄文土器	山形県南西部、最上川右岸の河岸段丘上に立地する。調査の結果、四つの時代の遺構・遺物群がみとめられた。縄文時代は列状に分布する陥穴群(Tpit)、古墳時代は、方形周溝墓群で、覆土内から古墳時代前期と考えられる土師器が出土した。平安時代は、土師器・赤焼土器、坏各１点。中・近世は館に関連すると考えられる土塁・掘立柱建物跡・井戸跡が検出された。
		古墳前期	方形周溝墓	3	土師器　坩・壺・甕	
		平安			土師器・赤焼土器　坏	
		中・近世	掘立柱建物跡 井戸跡 土壙 柱穴 土塁 空堀	3 4 5	陶磁器 木製品　漆椀・横櫛 石製品　石臼	

図　　版

航空写真（S＝1：8,000　高度 1,380m）
写真提供：県土木部長井建設事務所



調査区空中写真（南東から）

調査区西側空中写真（北西から）

SD1・2方形周溝墓全景

SD4方形周溝墓全景

遺跡遠景（北西から）

調査前風景（北から）

ジョレンによる面整理（南東から）

重機による表土除去作業（北西から）

遺構検出状況（東から）

グリッド設定作業状況（東から）

SD1方形周溝墓調査風景（北西から）

SD4方形周溝墓調査風景（東から）

土墓縦断面掘り下げ作業（西から）

調査説明会（北から）

空撮委託状況（南東から）

埋め戻し作業状況（東から）

SK23陥穴土層断面（南から）

SK26陥穴土層断面（西から）

SK23陥穴（北から）

SK26陥穴（西から）

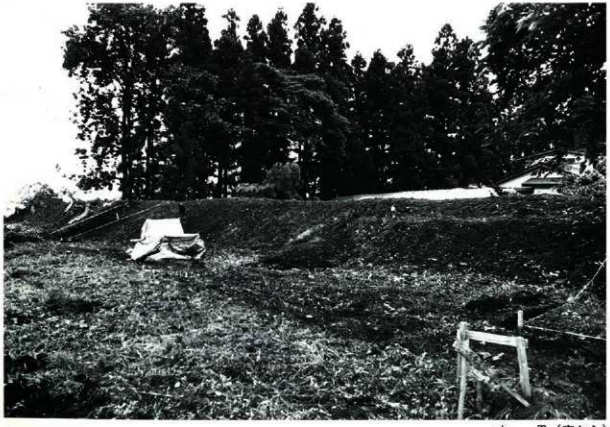
SK30陥穴土層断面（南東から）

SK24陥穴土層断面（南から）

SK30陥穴（南東から）

SK41陥穴土層断面（北から）

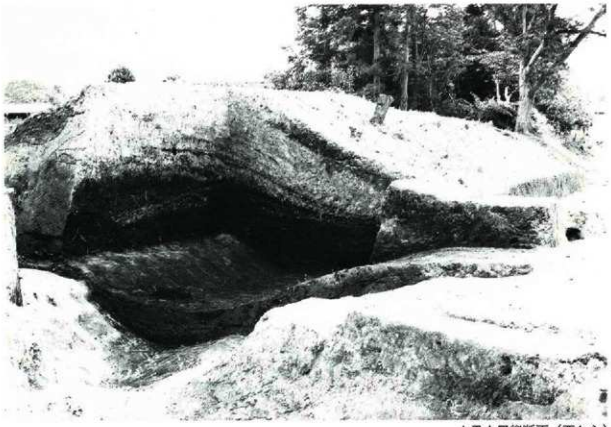
土　墨（西から）



土　墨（南から）

土墨調査状況（南東から）

土墨土層断面（西から）



土墨土層縦断面（西から）

方形周溝墓群全景（南東から）

SD1方形周溝墓（北から）

SD2方形周溝墓（南東から）

SD1・SD2 d-d' 土層断面（北から）

SD2 h-h' 土層断面（西から）

SD1 e-e' 土層断面（南西から）

SD2 i-i' 土層断面（西から）

SD1 f-f' 土層断面（西から）

SD2 J-J' 土層断面（東から）

SK21 g-g' 土層断面（西から）

SK53 k-k' 土層断面（南から）

SD1方形周溝墓調査風景（北から）

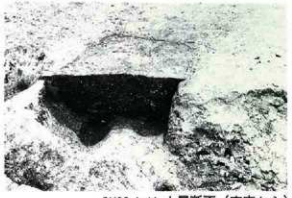
SK53完掘（南から）

SD4方形周溝墓全景（東から）

SD4方形周溝墓全景（南東から）

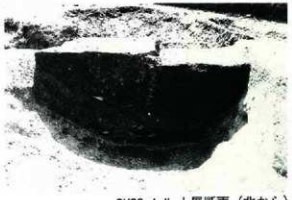
SD4 c-c' 土層断面（北東から）

SD4 e-e' 土層断面（北東から）



SK28 k-k' 土層断面（南東から）

SK44・48・SD4 h-h' 土層断面（西から）



SK32 J-J' 土層断面（北から）

SK44・48完掘（西から）

SK32完掘（北から）

井戸跡群・掘立柱建物跡（北西から）

SB5建物跡（北東から）

SB6建物跡（北から）

SB7建物跡（北から）

SB5・6建物跡（北西から）

SE35井戸跡土層断面（北西から）

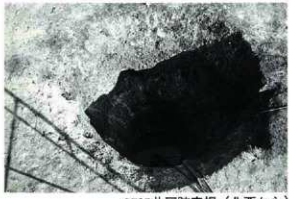
SE36井戸跡土層断面（北西から）

SE35井戸跡完掘（北西から）

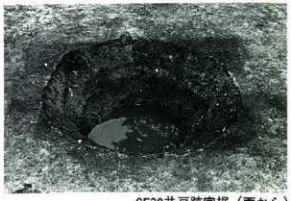
SE36井戸跡完掘（北西から）

SE37井戸跡土層断面（北西から）

SE38井戸跡土層断面（西から）



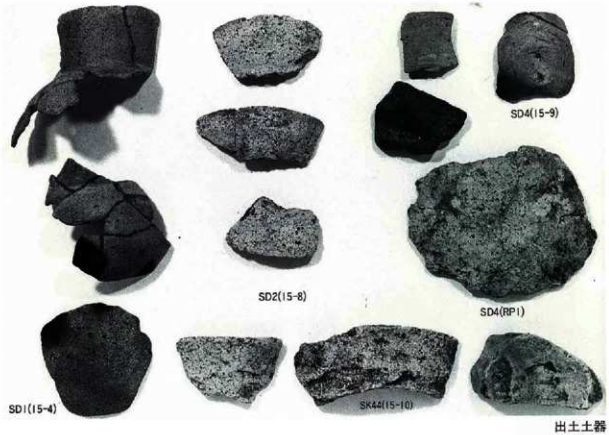
SE37井戸跡完掘（北西から）



SE38井戸跡完掘（西から）

SD1出土土器（15－1）

SD2出土土器（15－6）



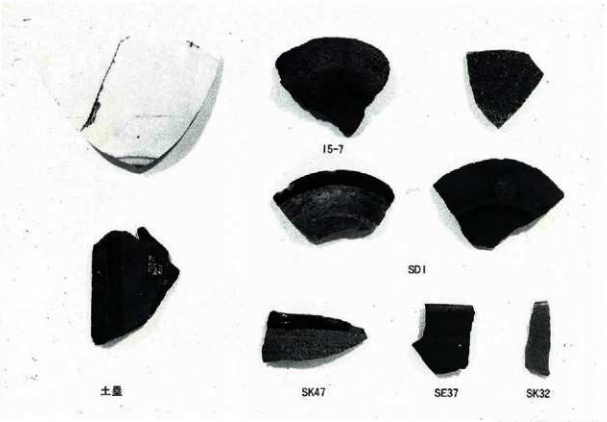
出土土器

SD1（15－1）出土状況

SD2（15－6）出土状況

SD1出土土器（15－3）

SD1出土土器（15－5）

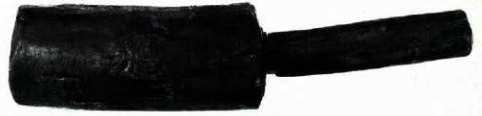


出土土器・陶磁器

同 上 内 面

SE35出土塗椀

SE35出土板



SE37出土横槌

SE35出土横桟

SE37出土石臼

同・上 面

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第16集

黒滝館跡(くろたきたてあと)発掘調査報告書

１９９４年3月３１日　発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-31　山形県上山市弁天二丁目15番１号
電話　0236-72-5301
印刷　山形印刷株式会社

094 - 278